

2021(令和3)年度

* 熊本教区 *

組重点プロジェクトリーダー研修会



◇日時 2021(令和3)年11月10日(水) 午後1時30分開会

◇会場 熊本教区教務所 教区会館2階大広間
熊本市中央区坪井2丁目3番32号 TEL:096-343-8283

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

結ぶ絆から、広がるご縁へ

—From tying bonds to great encounters—

主催：「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」熊本教区委員会

「浄土真宗のみ教え」についてのご親教

本年も、皆さまと共に立教開宗記念法要のご勝縁に遇わせていただきました。立教開宗とは親鸞聖人が『教行信証』を著して他力の念仏を体系的にお示しになり、浄土真宗のみ教えを確立されたことをいいます。この法要をご縁として、私たちに浄土真宗のみ教えが伝わっていることをあらためて味わわせていただきましょう。

さて、仏教を説かれたお釈迦さまは、諸行無常や諸法無我という言葉でこの世界のありのままの真実を明らかにされました。この真実を身をもって受け入れることのできない私たちは、日々「苦しみ」を感じて生きていますが、その代表的なものが「生老病死」の「四苦」であるとお釈迦さまは表されました。むさぼり・いかり・おろかさなどの煩惱を抱えた私たちは、いのち終わるその瞬間まで、苦しみから逃れることはできません。

このように真実をありのままに受け入れられない私たちのことを、親鸞聖人は「煩惱具足の凡夫」と言われました。

そして、阿弥陀如来は煩惱の闇に沈む私たちをそのままに救い取りたいと願われ、そのお慈悲のお心を「南無阿弥陀仏」のお念仏に込めてはたらき続けてくださっています。

ご和讃に「罪業もとよりかたちなし 妄想顛倒のなせるなり」「煩惱・菩提体無二」とありますように、人間の分別がはたらき出す前のありのままの真実に基づく如来のお慈悲ですから、いのちあるものすべてに平等にそそがれ、誰一人として見捨てられることなく、そのままの姿で摂め取ってくださいます。

親鸞聖人は「念仏成仏これ真宗」(『浄土和讃』)、「信は願より生ずれば 念仏成仏自然なり 自然はすなはち報土なり 証大涅槃うたがはず」(『高僧和讃』)とお示しになっています。浄土真宗とは、「われにまかせよ そのまま救う」という「南無阿弥陀仏」に込められた阿弥陀如来のご本願のお心を疑いなく受け入れる信心ただ一つで、「自然の浄土」(『高僧和讃』)でかたちを超えたこの上ないさとりを開いて仏に成るといふみ教えです。

阿弥陀如来に願われないのちと知らされ、その温かなお慈悲に触れる時、大きな安心とともに生きていく力が与えられ、人と喜びや悲しみを分かち合い、お互いに敬い支え合う世界が開かれてきます。如来のお慈悲に救われていく安心と喜びのうえから、仏恩報謝の道を歩まれたのが親鸞聖人でした。私たちも聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるよう、ここにその肝要を「浄土真宗のみ教え」として味わいたいと思います。

浄土真宗のみ教え

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声

私の煩悩と仏のさとりは 本来一つゆえ

「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といたいて

この愚身をまかす このままで

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しずつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々に 精一杯 つとめます

来る2023（令和5）年には親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えいたします。聖人が御誕生され、浄土真宗のみ教えを私たちに説き示してくださったことに感謝して、この「浄土真宗のみ教え」を共に唱和し、共につとめ、み教えが広く伝わるようお念仏申す人生を歩ませていただきましょう。なお、2018（平成30）年の秋の法要（全国門徒総追悼法要）の親教において述べました「私たちのちかい」は、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会を引き続き唱和していただき、み教えにつながっていくご縁にしていきたいと願っております。

2021（令和3）年4月15日

浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

◇◆◇ 日 程 ◇◆◇

13:00 受 付

13:30 開 会

*開会の辞

*『浄土真宗のみ教え』唱和

*挨拶 宮川 善裕 教務所長

*閉式の辞

13:40 講 演 ① (60分)

*岡寄 秀恵 氏〔重点プロジェクト推進室長〕

14:40 休 憩 (10分)

14:50 講 演 ② (30分)

*堀 浄信 氏〔教区重点プロジェクトリーダー／
児童養護施設 光明堂園施設長〕

15:20 事例発表 (20分)

*宇治 正信 氏〔託麻組重点プロジェクトリーダー〕

15:40 休 憩 (10分)

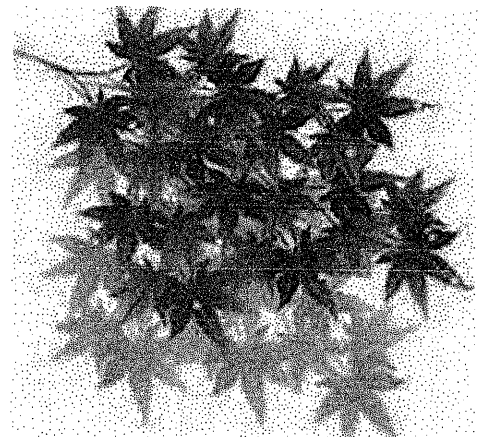
15:50 取り組みと実践／意見交換 (60分)

16:50 閉 会

*開式の辞

*挨拶 藤岡 孝史 教区実践運動委員会委員長

*閉会の辞



～講演①～

***岡寄 秀恵 氏（重点プロジェクト推進室長）**

『組重点プロジェクトリーダーとしての役割』

[illegible]

～講演②～

*堀 浄信 氏（教区重点プロジェクトリーダー／『光明堂園』施設長）

『子どもの貧困問題について』

[illegible]

～事例発表～

*宇治 正信 氏（託麻組重点プロジェクトリーダー／託麻組広福寺住職）

This image shows a full page of handwriting practice paper. It features approximately 20 horizontal dashed lines spaced evenly across the page, providing a guide for letter height and placement. The background is plain white, and there are no margins or additional markings.

「組重点プロジェクトリーダー研修会」

託麻組重点プロジェクト活動事例報告 2021.11.10

担当：宇治正信（託麻組廣福寺）

託麻組重点プロジェクト

テーマ「貧困の克服に向けて ―子どもたちを育むために―」

目標（１）時代を担う子どもの育成

（２）災害支援への取り組み

（推進期間：2020（令和2）年度～2023（令和5）年度）

1. 「シンママ応援団」への支援

期日：2020年12月23日（水）より開始

内容：貧困生活の割合が高いシングルマザー家庭を支援する「シンママ応援団」への継続的な支援。

支援金（30,000円）、支援物資を届ける。支援物資郵送の際の手伝い。
今年度の主な活動：コロナ禍における、支援物資発送作業を行う場所の提供。

① 活動成果として

まだ僅かな期間ではあるが、テーマに関して社会で本格的に取り組んでいる方々と知り合えた。

そこで様々な学びが得られる。

- ・自分達が普段中々見えていない社会の現状を知る。
- ・宗教者としての自分達ということを考えさせられる。
- ・組実践運動推進協議会の際に代表の増淵先生を講師に迎える。

※支援活動がもっと組全体に広がれば、各寺院の活動の活発化にもつながり得ると感じさせられた。

② 改善点、今後の課題として

- ・貧困問題に対しての学びを深めていくこと（相手の現状を知る、取り組む姿勢）
- ・組内への周知
- ・組内の募金活動、支援物資の集め方
- ・推進期間が終わった後の支援体制

2. 7月豪雨ボランティア（2020年）

場所：芦北組 出向者：重点プロジェクト担当者

以上

～取り組みと実践／意見交換～ *座長:堀 浄信 氏

Handwriting practice lines consisting of 25 horizontal dashed lines.

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)

総合基本計画・重点プロジェクト

1. 総合基本計画

宗門(浄土真宗本願寺派)では、1986(昭和 61)年より「御同朋の社会をめざして」という目標を掲げ、「基幹運動(門信徒会運動・同朋運動)」を進めてまいりました。全員聞法・全員伝道を提唱する門信徒会運動では、教化団体の活性化や門徒推進員の養成などを通して、組・教区活動を活発化させてきました。また、同朋運動は、私と教団のあり方を問い、部落差別をはじめとするあらゆる差別・被差別からの解放をめざすことを通して、人々の苦悩に向き合う活動を充実させてきました。

基幹運動の成果と課題を踏まえ、さらに教えを広く世界に伝えていくこと、また従来の枠組みを超えた多様な活動を、より広く実践していくことをめざし、宗門では、2012(平成 24)年 4 月から、運動名称を「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)とあらため、宗門全体の活動として進めています。

『仏説無量寿経』には、あらゆる世界に生きるすべてのいのちあるものが、阿弥陀さまのはたらきによって分け隔てなく救われていくことが示されています。生きとし生けるものすべてを等しくいつくしむ大慈悲が阿弥陀さまの救いのはたらきであります。そのはたらきを疑いなく聞いていくことが、真実信心であり、生と死の苦しみから解放放たれる道なのです。

宗祖親鸞聖人は、阿弥陀さまの救いを依りどころとして、混迷した世の中にあつて、ともに念仏を喜ぶ仲間を「とも同朋」「御同行」と呼び、苦悩を抱える人々とともに生き抜かれました。私たちの先人はそのお心を受け、「御同朋・御同行」として、み教えをまもり広めていこうと努めてこられました。

阿弥陀さまの慈悲に包まれ、智慧に照らされている者どうしであることを自覚しつつ、親鸞聖人のお姿を鑑として、互いに支え合って生き抜いていくことこそが、私たち念仏者のあり方といえます。

宗門では、親鸞聖人 750 回大遠忌法要を迎えるにあたり、最高法規である『宗制』と『宗法』の中に、宗門のあり方を明確にしました。その『宗制』には、「本宗門は、その教えによって、本願名号を聞信し念仏する人々の同朋教団であり、あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献するものである」と記されています。

専如門主は、ご親教『念仏者の生き方』において「仏さまのような執われのない完全に清らかな行いにはできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです」と具体的な生き方についてご教示くださいました。

また、『伝灯奉告法要御満座の消息』において「私たち一人ひとりが真実信心をいただき、お慈悲の有り難さ尊さを人々に正しくわかりやすくお伝えすることが基本です」と念仏者としての基本的なあり方をお示しになり、『念仏者の生き方』でご教示されたことが、親鸞聖人のお心にかなう歩みであると、その大切さをあらためてお諭しになっています。

さらに『念仏者の生き方』の肝要を「私たちのちかい」として4カ条にまとめ、若者をはじめとしたこれまで仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会で唱和してほしいとお勧めくださいました。

現代社会は、人と人との関わりが希薄になり、人々は様々な価値観の違いを認めることができず、互いに対立し時に傷付け合っています。現代の苦悩をともに背負っていくには、変化の速い時代に生きる者として、変わるものないみ教えに基づき、戦争や差別をはじめとする過去の歴史に学びながら、人々の悲しみや現実の苦悩への眼差しを養うことが重要です。私たち念仏者は、立場の違いを認めつつ、誰もが排除されることのない社会をめざしていかなければなりません。

現在、布教伝道の現場では、社会や家族のあり方が急激に変化する中で、真実信心を伝えることが大変難しくなっています。子ども・若者へのご縁づくりや国際的な伝道、法要や葬送儀礼の簡略化をはじめとする変化など様々な困難な課題に直面しています。これらの課題克服に向けて、ご法義が伝えられていくよう一人ひとりの創意工夫が求められています。

また一方、現代社会には続発する災害への対応、エネルギーや環境の問題、経済格差による貧困問題、自死、過疎・少子高齢化、さらにはテロや武力紛争をはじめ非戦平和への課題、差別を含む人権の抑圧などの問題があります。現代社会の諸問題を自らの課題・苦しみとし、念仏者として真摯に取り組んでいくことが大切であります。そのことが、『念仏者の生き方』のお心を体して生きていくことにもなるのです。

こうした山積する課題に仏法を依りどころとして立ち向かっていく具体的な実践によってこそ、『宗制』に定められた「阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会」が実現されていくのです。

専如門主は『念仏者の生き方』で、「国の内外、あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、そのお心になうよう私たち一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。世界の幸せのため、実践運動の推進を通し、ともに確かな歩みを進めてまいりましょう」とお示しになっています。2023(令和5)年には親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えいたします。このご勝縁を機縁として、私たちは宗門の英知を結集しながら御同朋の社会をめざす運動(実践運動)を更に推進いたします。

2. スローガン

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)の主旨を簡潔に表したスローガンを掲げます。

【 結ぶ絆から、広がるご縁へ 】

3. 重点プロジェクト

(1) 重点プロジェクトとは

「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)は、『宗制』に掲げる「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」という基本理念を体して、宗門を構成するすべての人が参画し実践する運動です。その推進の中、重点プロジェクトは、実践運動総合基本計画に基づき、社会への具体的な貢献をめざし、実践目標を定め、年限を区切って取り組むものです。

今期は前期を踏襲し、ご親教『念仏者の生き方』のお心を体した宗門全体の実践目標を定め、一体感を持って取り組むこととします。

宗門のあらゆる人々が課題を共有し、各現場が実践目標の達成をめざし、重点プロジェクトが充実したものとなるよう展開していきましょう。

なお、現場において早急に取り組むべき課題は地域差もあり様々です。そのため、引き続き各教区・各組において独自に定めた実践目標を設定していただき、宗門全体の課題と併せて取り組んでいただくことも可能です。

(2) 宗門重点プロジェクトの実践目標

< 貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～ >

一子どもたちを育むために一

専如門主は、『念仏者の生き方』の中で、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題の一つとして、「経済格差」を指摘されています。世界的な経済格差は富の偏在により深刻な貧困問題を引き起こし、実に多くの人々が貧困の状況におかれ悲しみ苦しんでおり、特に弱い立場である子ども

もや高齢者がその影響を強く受けています。さらに、この経済格差がもたらす貧困の問題は、紛争やテロを引き起こす大きな要素ともなっており、あらゆる人々が共に心安らぐことのできる平和な世界を実現するためにも、積極的に克服すべき課題です。

宗門では戦後70年を機縁^{きえん}として、3年間にわたりあらためて平和への学びを深めて、議論をしてきました。それをふまえ、具体的な四つの平和貢献策を提案し、公聴会^{こうちようかい}等で様々な意見をいただきました。そして、その提案の一つである「経済格差・貧困の克服へ」は、平和実現のため特に国内外での貧困に取り組むよう提案されたものであり、今後注力^{ちゅうりきよく}すべき課題であると総合的に判断しました。

さらに、国際連合でSDGs^{エスディージーズ}（持続可能な開発目標）が採択され、「誰一人取り残さない」の理念のもと、貧困問題に取り組んでいます。国内外の様々な組織が連携しつつ、その課題克服へ取り組む中で、宗教者に向けられた期待は高まっています。

これらの現状をふまえ、宗門では、より多くの人や寺院が参画できる取り組みとして、＜貧困^{ひんこん}の克服^{こくふく}に向けて～Dana for World Peace～＞一子^{いこ}どもたちを育^{はぐ}むために一を重点プロジェクトの実践目標として定め、世界を視野に入れ長期的展望に立ち、お釈迦さま以来、仏教が大切にしてきた「布施」の精神をもとに、できることから実践します。

(3) 推進期間

2020(令和2)年度から2023(令和5)年度までの4年間

◇現在3期10年間にわたり取り組みを進めている宗門総合振興計画^{しゅうもんそうごうしんこうけいかく}においても、同様の基本理念を掲げ、三つの基本方針（Ⅰ. 仏教の精神に基づく社会への貢献、Ⅱ. 自他共に心豊かに生きる生活の実践、Ⅲ. 宗門の基盤^{きばん}づくり）に基づく重点項目、及び具体的な取り組みとしての推進事項を設定しています。これまでご縁のなかった人にも伝わる言葉、10年、20年後の日本社会で求められる人の育成、宗教的感動を共有できる法要や葬送儀礼^{そうそうぎれい}の確立に向けた慎重かつ丁寧な検討、少子高齢化や過疎が進行している地域に所在する寺院への対応、首都圏における伝道推進といった宗門が抱える諸課題にとどまらず、社会情勢の課題にも対応する取り組みを推進しています。

◇宗派公式ウェブサイトから「総合基本計画・重点プロジェクト」・「宗門総合振興計画」・「実践事例」・「基幹運動総括書」等のダウンロードができますので、ぜひご参照ください。

以 上

<<熊本教区>> 各組重点プロジェクト達成目標一覧
 実践目標：<貧困の克服に向けて ～Dana for World Peace～>
 ー子どもたちを育ためにー

	組 名	達 成 目 標
1	熊 本 組	①次代を担う子どもたちの育成 ②災害支援への取り組み
2	熊本西組	仏教の精神に基づく社会への貢献 (社会的弱者である子どもや高齢者への支援活動)
3	熊本南組	
4	坪 井 組	①次代を担う子どもたちの育成 ②災害支援への取り組み
5	飽 田 組	①次代を担う子どもたちの育成 ②災害支援への取り組み
6	託 麻 組	①次代を担う子どもたちの育成 ②災害支援への取り組み
7	宇土南組	①災害支援 東日本大震災・熊本地震被災者への支援 ②日常の寺院活動一日頃の月忌参りや儀礼を見直し、お寺とご門徒とのご縁づくりに努める
8	宇土北組	①互いに尊重し合う念仏者 ②言われて久しい少子高齢化社会、新型コロナによる孤独化、さらに心の貧困などに向き合い、信頼関係に誘う実践運動をめざす
9	長 洲 組	地域密着型の支援をめざす (組内活動地域の「貧困」の実情の添った支援をめざします)
10	高 瀬 組	次世代門信徒の育成～高瀬組みんなのサンガ活動に取り組む～
11	玉 関 組	①実践目標を通してお念仏を称え、お聴聞に励む真の念仏者になって頂くことを目標とする ②災害支援に取り組む
12	山 鹿 組	①多くの子供達のお寺とのご縁づくり ②自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現
13	鹿 本 組	渋難状況におかれた人々および地域の生活支援
14	菊 池 組	次世代を担う子どもたちの育成

15	阿 蘇 組	みなが共に心よりそえる地域を目指す
16	合 志 組	①「子どもの貧困」問題に学ぶ ②「お寺ステイ」事業への支援、積極的関り
17	小 国 組	①過疎化が進む中での伝道・教化の充実 ②拡がるご縁への取り組み
18	緑 陽 組	①寺院並びに地域社会で子どもを育むこと ②災害支援（ボランティア活動）
19	益 東 組	（１）ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）①持続可能な貧困支援活動（次世代を担う子供たちの育成）の実践 （２）ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）②住み続けられる町づくりを（災害支援への取り組み）の実践 （３）持続可能な寺院活動づくりの実践
20	益 西 組	次代を担う子どもたちの育成
21	益 南 組	①子ども若者ご縁づくりの推進 ②地域活動の各寺院・教化団体の協力や共同化 ③災害支援への取り組み
22	益 北 組	①時代を担う子どもたちの育成 ②災害支援への取り組み
23	八 代 組	①貧困問題の状況把握と具体的な実践活動 ②葬儀社との相互理解 ③災害支援への取り組み
24	種 山 組	①地域の子どもたちと寺院の関係性構築 ②継続的な災害支援
25	芦 北 組	①大切な人を亡くした方のサポート体制作り ②葬儀儀礼の意味、あり方の見直し ③「子どもの貧困」に関する学びを深め、問題意識の組内への認知度を深める ④「子どもの貧困」を克服するボランティアへの参加
26	球 磨 組	①組内の「連帯意識」を強化 ②次代を担う子どもたちの育成 ③人の悲しみと向きあう実践
27	天草上組	新たな参拝者の発掘をして参拝者の育成をしよう
28	天草下組	

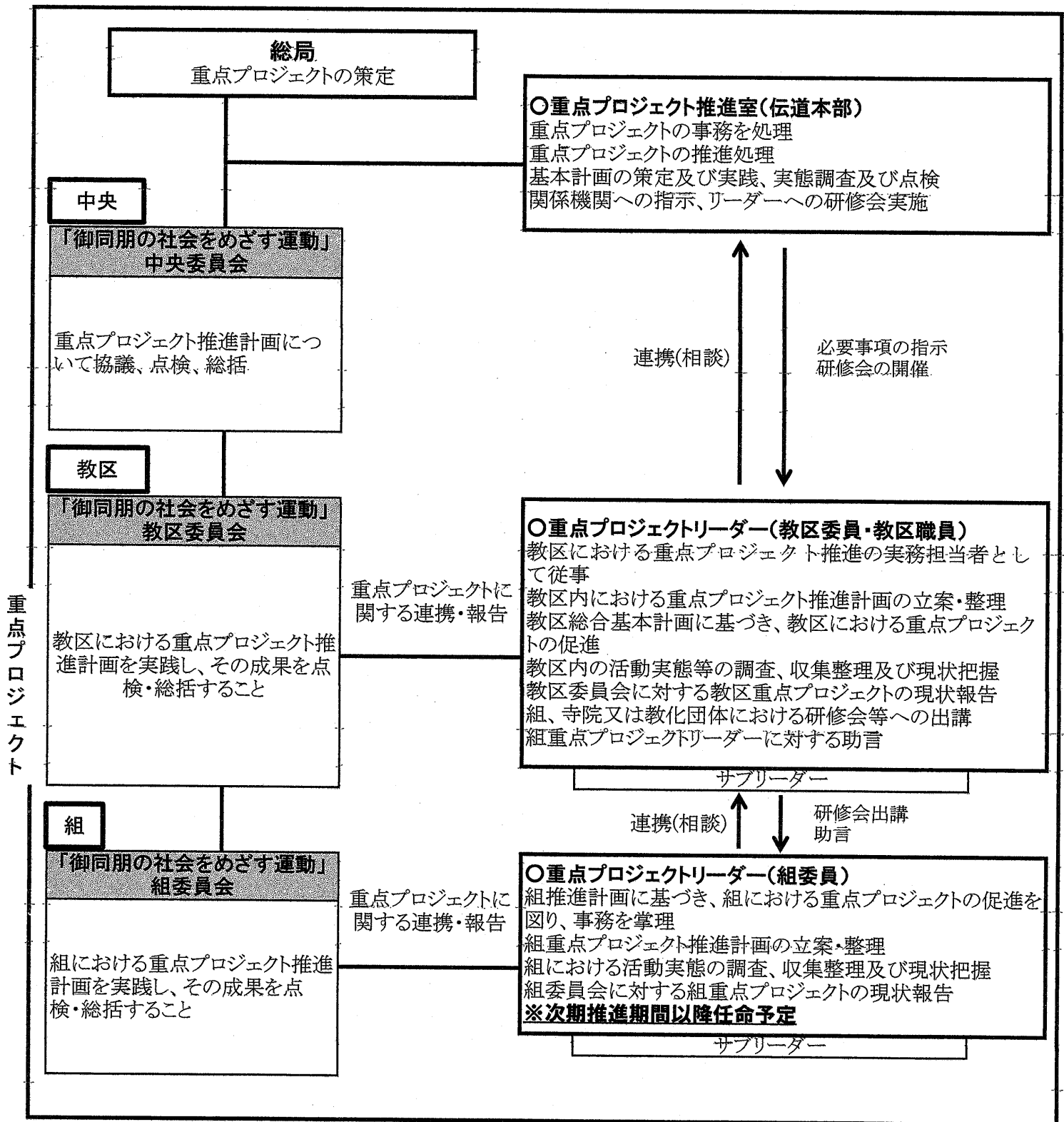
<重点プロジェクト推進室 書式2>

宗門重点プロジェクト推進要綱【組リーダー】

1. 目 的 宗門重点プロジェクトの実践目標を計画的かつ強力に推進するため、組に重点プロジェクトリーダー及び重点プロジェクトサブリーダーを置き、中央宗務機関・教区・組を通じた一体的な運動とするもの。
2. 推 進 体 制 (1)組に重点プロジェクトリーダー1人を置く。また、組に重点プロジェクトサブリーダーを1人置くことができる。
(2)組の重点プロジェクトリーダー及び重点プロジェクトサブリーダーは、教区と連携し、重点プロジェクトの推進にあたる。
3. 組重点プロジェクトリーダー
(1)組重点プロジェクトリーダー
①組重点プロジェクトリーダーは、組の実践運動委員会(以下「組委員会」という。)で協議された推進計画に基づき、組における重点プロジェクトの促進を図る。
②組重点プロジェクトリーダーは、組委員会委員(組長の職務に
ある者を除くことが望ましい)のうちから、組長が推薦した者について教務所長が任命する。
(2)所掌事項
①組における重点プロジェクト推進の実務担当者として従事すること。
②組における重点プロジェクト推進計画の立案・整理に関すること。
③組における重点プロジェクトの活動実態等の調査、収集整理及び現状把握に関すること。
④組重点プロジェクトの現状について組委員会に報告すること。
4. 重点プロジェクトサブリーダー
(1)組の重点プロジェクトサブリーダー
①組重点プロジェクトサブリーダーは所属する組の重点プロジェクトリーダーを補佐し、その促進にあたる。
②組重点プロジェクトサブリーダーは、組委員会委員(組長の職務にある者を除く。)のうちから、組長が推薦した者について教務所長が任命する。
5. 任 期 第4期 重点プロジェクト推進期間
2020(令和2)年度から2023(令和5)年度まで。
6. 担 当 重点プロジェクト推進室

以 上

重点プロジェクト推進体制相關図



実践運動は中央、教区、組の実践運動委員会を中心に推進されているが、特に重点プロジェクトに関して、教区・組を通じて一体的に推進するため、重点プロジェクトリーダー、サブリーダーを置くものである。

教区委員会設置規則準則を変更し、教区委員会には学識経験者を資格に関わらず委員に委嘱できるよう変更しており、リーダー、サブリーダーに専門的知識を有した者を配置することも可能となっている。教区の実情に合わせ、委員や教務所職員から任命をする。

リーダー・サブリーダーは、各委員会と連携の上、重点プロジェクト推進計画の立案整理、教区内の活動実態の調査、収集整理、教区委員会に対する現状報告などを行う。また要請に応じて、各組および寺院・教化団体における研修会などに出講する。

なお、リーダーの能力向上のため、宗派は毎年リーダーを対象とした研修協議会を開催する。

熊本教区 組重点プロジェクトリーダー・サブリーダー名簿

No.	組	寺	リーダー／サブリーダー	名 前	住 所	組委員会での役職
1	熊本組	専崇寺	リーダー	津田 顕乗	熊本市西区春日4丁目24-7	組実践運動推進員
2		淨影寺	サブリーダー	青木 崇信	熊本市中央区細工町2-32	
3	熊本西組	淨照寺	リーダー	中津海 法橋	熊本市中央区西子飼町10-25	
4	熊本南組	正念寺	リーダー	久保田 薫	熊本市西区横手3丁目3-47	組実践運動推進員
5		正妙寺	サブリーダー	花園 教宏	熊本市中央区新町4丁目5-5	
6	坪井組	明専寺	リーダー	武原 正史	熊本市中央区坪井1丁目6-13	
7		淨音寺	サブリーダー	法喜 圓光	熊本市中央区黒髪1丁目8-40	
8	飽田組	西楽寺	リーダー	加藤 薫	熊本市南区川尻6丁目4-1	組実践運動推進員
9		西教寺	サブリーダー	西岡 彰	熊本市南区川尻1丁目3-37	
10	託麻組	廣福寺	リーダー	宇治 正信	熊本市東区長嶺東4-13-1	組実践運動推進員
11		大福寺	サブリーダー	有藤 顕志	熊本市南区近見2丁目7-1	
12	宇土南組	圓光寺	リーダー	東 正毅	宇城市松橋町松橋1242	組実践運動推進員
13	宇土北組	莊嚴寺	リーダー	山本 誠	宇土市新開町161	組実践運動推進員
14		光国寺	サブリーダー	源 一道	宇土市定府町7	
15	長洲組	安養寺	リーダー	隈部 知更	玉名市岱明町山下1108	組実践運動推進員
16		三寶寺	サブリーダー	長尾 彰心	玉名郡長洲町長洲1216	
17	高瀬組	西光寺	リーダー	西居 真雄	玉名市高瀬368	
18	玉関組	光明寺	リーダー	佐々木 晃憲	玉名市溝上328	組実践運動推進員
19	山鹿組	眞教寺	リーダー	眞野 秀慈	熊本市北区植木町植木57	組実践運動推進員
20	鹿本組	安立寺	リーダー	児玉 泰然	山鹿市菊鹿町下内田1792	組実践運動推進員
21	菊池組	等覺寺	リーダー	泗水 康基	菊池市泗水町住吉4532	
22		照嚴寺	サブリーダー	高田 聡信	菊池市西寺1820	組実践運動推進員
23	阿蘇組	淨林寺	リーダー	野田 龍賢	阿蘇郡南阿蘇村河陽1355	
24		西蓮寺	サブリーダー	山村 章充	阿蘇郡高森町高森1328	組実践運動推進員
25	合志組	大願寺	リーダー	星子 顕亮	菊池郡大津町室2032	
26		嚴照寺	サブリーダー	山隈 裕誓	合志市竹迫1794	
27	小国組	淨泉寺	リーダー	上廣 一城	阿蘇郡小国町上田6	
28	緑陽組	西願寺	リーダー	菊池 文也	熊本市中央区細工町2丁目32番地	
29		光勝寺	サブリーダー	谷本 健人	上益城郡嘉島町下仲間1296	
30	益東組	永寿寺	リーダー	佐藤 誓康	上益城郡山都町八木873	
31		教尊寺	サブリーダー	大道 亜紀子	上益城郡山都町滝上503	
32		光円寺	サブリーダー	吉田 智美	上益城郡山都町米生483	
33	益西組	法淨寺	リーダー	三道 哲舟	八代市泉町栗木4972	
34	益南組	円明寺	リーダー	水元 昭晃	上益城郡御船町水越309	組実践運動推進員
35	益北組	光輪寺	リーダー	山田 敬史	熊本市東区沼山津4丁目8-7	組実践運動推進員
36		光西寺	サブリーダー	新改 学	上益城郡甲佐町白旗2215	

No	組	寺	リーダー／ サブリーダー	名 前	住 所	組委員会での役職
37	八代組	教覚寺	リーダー	林 暁明	八代市古城町2338	組実践運動推進員
38		正現寺	サブリーダー	松岡 達也	八代市奈良木町20	
39	種山組	西福寺	リーダー	三原 哲信	八代郡氷川町宮原町598-1	
40		西音寺	サブリーダー	伊藤 公哉	八代市千丁町吉王丸1516	
41	芦北組	覚円寺	リーダー	黒田 了智	芦北郡芦北町海浦444	
42	球磨組	明導寺	リーダー	藤岡 教顕	球磨郡湯前町1955	組実践運動推進員
43		宣徳寺	サブリーダー	藤島 英信	球磨郡あさぎり町免田西下乙3258	
44	天草上組	霊光寺	リーダー	深谷 恵了	上天草市姫戸町姫浦2651	
45		観乗寺	サブリーダー	森島 淳英	上天草市龍ヶ岳町樋島167-1	組実践運動推進員
46	天草下組					